

成すべきか、成さざるべきか：自らの生きる道の選択

シヨリハツン・キプティヤ（インドネシア）

近代化が進むにつれ、より多くの女性が社会の中で果たす役割を選択するようになっていきます。今日では、女性は数十年前と比較して、より自由を手に入れました。社会において、女性が男性と同じレベルの地位を獲得している様子を見ると、現代の女性がいかにあらゆる分野に進出し、自らの情熱を追い求めることができているかが分かります。

女性が自由を手に入れたことで、人生や世の中を探求することが容易になりました。ジュリア・ロバーツが主演した「モナリザ・スマイル」という映画の中の、かつてのアメリカ社会における女性像の描かれ方が思い出されます。この映画を観ると、当時は教育レベルの如何にかかわらず、いかに女性が男性よりも下位に位置づけられていたかが分かります。翻って現代社会に目を向けると、女性が社会への参加方法をいかにして選択しているかが見えてきます。

アストリさんは東ジャワ州スラバヤ市在住の34歳の女性ですが、コミュニケーション学の学士号を取得し、同じく修士課程も修了しました。卒業後、彼女は政府機関で広報担当者としてフルタイムで働く道を選びました。そこで8年間仕事をした後、彼女は専業主婦になるために仕事を辞める決断をしました。当時、彼女は結婚しており、1歳に満たない子供がいました。娘のために家庭教師としての役割もこなせるベビーシッターを探すのは容易ではなく、そのため彼女が家に居る方が都合が良かったのです。娘のために母親であり、同時に教師でもある。これが彼女の下した決断でした。

こうして、アストリさんは人生の岐路において、自らの生き方を選択したと言えます。彼女にはやりたい事、なりたい職業を選べる自由があります。そして、彼女は将来を見据えてこの道に決めたのです。今では、娘も既に成長し、3歳を迎えました。そこで、彼女は娘の世話をしながらできる仕事をすることを決意しました。自宅で商品を販売するオンラインショップを始めたのです。その後様々なことについて検討を重ね、今ではフェイスブックやインスタグラムなどのソーシャルメディアを活用し、そのショップのプロモーションを行っています。その際、全国紙の記者である夫の協力も得ました。つまるところ、彼女にとって全ては選択の問題なのです。

このように、アストリさんは行動を通して自らの意思を明示しました。現在も、彼女は娘のために母であり教師であることを一番の目標に据えて、在宅で仕事をしています。彼女が目標とする役割を全うできているのも、ひとつには夫の協力のおかげだと言えます。この事例は、いかに現代の生活様式が女性の目標達成を可能にしているかを示しています。彼女がオンラインショップでの起業を決意した時、自らが辿る人生の道筋を選択したのです。

多くの女性にとって、自分の生き方にこのような選択肢は無いかもしれません。複数の選択肢に直面した時、その中のひとつを選ぶことは、女性にとって重要な一歩です。現代社会では、高学歴の女性はいわゆる「素敵な職場」でフルタイムの仕事に就くのが当然だと思われがちです。しかし、技術が進歩し人々の考え方が変化してゆくのに伴い、現在では多くの女性にとって自らの人生の舵取りをすることが可能になっています。いずれは、女性は常に社会そのものの一部となっていくでしょう。

この事例は、女性がどのような役割を目指し、それを達成できるのかを明確に示しています。現代においても、子育てと子供の成長に関する責任を担うのは、いまだに女性です。女性にとって様々な生き方が存在することは、それだけ選択肢が多様化することを意味します。子供の教育に関して女性への依存度が高まるとしても、男性も育児に参加することはできるのです。今では、アストリさんは自分の生き方に満足しています。娘がもう少し成長して手がかからなくなれば、また別の道を選ぶかもしれません。民主主義や自由が世界の潮流となっている今日、女性が自らの自由意思で選択できる時代になったと言えるでしょう。

女性のエンパワーメントは、平等主義などに関する問題だけでなく、女性がいかに自分の生き方を選択することができるかといった、より広範な問題に取り組むことでもあるのです。



水産加工品を袋詰めするアストリさん